

令和6年度

熊本大学

熊本大学健康生命科学

S-HIGO プロフェッショナル養成フェローシップ
(S-HIGO プロフェッショナルプログラム)

シラバス

問い合わせ先：熊本大学 大学教育統括管理運営機構 大学院課程教育推進部
(教務支援担当(大学院支援))

E-mail: higo-program@jimu.kumamoto-u.ac.jp

授業時間

	大江キャンパス	本荘キャンパス	黒髪キャンパス
1時限	8:40 - 10:10	8:45 - 10:15	8:40-10:10
2時限	10:20 - 11:50	10:30 - 12:00	10:25-11:55
3時限	12:50 - 14:20	13:15 - 14:45	12:55-14:25
4時限	14:30 - 16:00	15:00 - 16:30	14:40-16:10
5時限	16:10 - 17:40	16:45 - 18:15	16:25-17:55
6時限	18:30-20:00	18:30 - 20:00	18:10-19:40

S-HIGO プロフェッショナルプログラム シラバス 目次

1. S-HIGO プロフェッショナルプログラムの授業科目、単位数及び履修方法	
S-HIGO プロフェッショナルプログラム科目一覧	3
履修届様式	
医学教育部	
博士課程一般コース	4
博士課程 HIGO 専門コース	5
薬学教育部	
博士課程	6
博士後期課程	7
2. 研究力向上パッケージ科目	
S-HIGO 特別実習	9
大学院教養教育プログラム科目 研究の最前線の知の統合	11
S-HIGO 最先端研究セミナーA	13
S-HIGO 最先端研究セミナーB	14
3. キャリアパス支援パッケージ科目	
S-HIGO プロジェクト	16
S-HIGO インターンシップ I	17
S-HIGO インターンシップ II	18
S-HIGO リーダーシップトレーニング講座	19
S-HIGO 行政・企業セミナーA	20
S-HIGO 行政・企業セミナーB	21

**1. S-HIGO プロフェッショナル
プログラムの授業科目
単位数及び履修方法**

S-HIGOプロフェSSIONALプログラムの授業科目、単位数及び履修方法

研究力向上パッケージ科目

授業科目	単位数		履修方法	備考
	必修	選択		
S-HIGO特別実習	1		4単位以上	共通開講
大学院教養教育プログラム科目 「研究の最前線と知の統合」		1		
S-HIGO最先端研究セミナーA		1		
S-HIGO最先端研究セミナーB		2		

キャリアパス支援パッケージ科目

授業科目	単位数		履修方法	備考
	必修	選択		
S-HIGOインターンシップ I	1		5単位以上	共通開講
S-HIGOプロジェクト	2			
S-HIGOリーダーシップトレーニング講座		1		
S-HIGO行政・企業セミナーA		1		
S-HIGO行政・企業セミナーB		2		
S-HIGOインターンシップ II		1		

大学院医学教育部（博士課程）
S-HIGO プロフェッショナルプログラム科目 履修届
（一般コース）

令和 年 月 日

熊本大学大学院医学教育部長 殿

令和 ____年度入学 学籍番号 _____

氏名： _____

メールアドレス（必須）

下記の授業科目を履修したいので許可願います。

記

分野名		指導教員の署名	
コース名	一般コース		

履修希望及び読替希望について、希望する科目の欄に○を記入すること。

区分	授業科目名	必修・選択の別		科目主任	履修希望	読替希望
		必修	選択			
研究力向上 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 4単位以上	S-HIGO 特別実習	1		首藤 剛	○	
	大学院教養教育プログラム科目 「研究の最前線と知の統合」		1	梅田 香穂子		
	S-HIGO 最先端研究セミナーA		1	西中村 隆一		
	S-HIGO 最先端研究セミナーB		2	西中村 隆一		
キャリアパス 支援 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 5単位以上	S-HIGO インターンシップ I	1		竹尾 透	○	
	S-HIGO プロジェクト	2		小川 峰太郎	○	
	S-HIGO リーダーシップ トレーニング講座		1	森岡 弘志		
	S-HIGO 行政・企業セミナーA		1	猿渡 淳二		
	S-HIGO 行政・企業セミナーB		2	猿渡 淳二		
	S-HIGO インターンシップ II		1	竹尾 透		

大学院医学教育部（博士課程）
S-HIGO プロフェッショナルプログラム科目 履修届
(HIGO プログラム専門コース)

令和 年 月 日

熊本大学大学院医学教育部長 殿

令和 ____年度入学 学籍番号 _____

氏名： _____

メールアドレス（必須）

下記の授業科目を履修したいので許可願います。

記

分野名		指導教員の署名	
コース名	HIGO 専門コース		

履修希望及び読替希望について、希望する科目の欄に○を記入すること。

区分	授業科目名	必修・選択の別		科目主任	履修希望	読替希望
		必修	選択			
研究力向上 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 4単位以上	S-HIGO 特別実習	1		首藤 剛	○	
	大学院教養教育プログラム科目 「研究の最前線と知の統合」		1	梅田 香穂子		
	S-HIGO 最先端研究セミナーA		1	西中村 隆一		
	S-HIGO 最先端研究セミナーB		2	西中村 隆一		
キャリアパス 支援 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 5単位以上	S-HIGO インターンシップ I	1		竹尾 透	○	
	S-HIGO プロジェクト	2		小川 峰太郎	○	
	S-HIGO リーダーシップ トレーニング講座		1	森岡 弘志		
	S-HIGO 行政・企業セミナーA		1	猿渡 淳二		
	S-HIGO 行政・企業セミナーB		2	猿渡 淳二		
	S-HIGO インターンシップ II		1	竹尾 透		

大学院薬学教育部（博士課程）
S-HIGO プロフェッショナルプログラム科目 履修届
(臨床薬学コース・医療薬科学コース)

令和 年 月 日

熊本大学大学院薬学教育部長 殿

令和 ____年度入学 学籍番号 _____

氏名： _____

メールアドレス（必須）

下記の授業科目を履修したいので許可願います。

記

分野名		指導教員の署名	
コース名	コース		

履修を希望する科目の欄に○を記入すること。

区分	授業科目名	必修・選択の別		科目主任	履修希望
		必修	選択		
研究力向上 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 4単位以上	S-HIGO 特別実習	1		首藤 剛	○
	大学院教養教育プログラム科目 「研究の最前線と知の統合」		1	梅田 香穂子	
	S-HIGO 最先端研究セミナーA		1	西中村 隆一	
	S-HIGO 最先端研究セミナーB		2	西中村 隆一	
キャリアパス 支援 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 5単位以上	S-HIGO インターンシップ I	1		竹尾 透	○
	S-HIGO プロジェクト	2		小川 峰太郎	○
	S-HIGO リーダーシップ トレーニング講座		1	森岡 弘志	
	S-HIGO 行政・企業セミナーA		1	猿渡 淳二	
	S-HIGO 行政・企業セミナーB		2	猿渡 淳二	
	S-HIGO インターンシップ II		1	竹尾 透	

大学院薬学教育部（博士後期課程）
S-HIGO プロフェッショナルプログラム科目 履修届

（ドラッグデリバリーコース・バイオファーマコース・メディシナルケミストリーコース・ライフサイエンスコース）

令和 年 月 日

熊本大学大学院薬学教育部長 殿

令和 ____年度入学 学籍番号 _____

氏名： _____

メールアドレス（必須）

下記の授業科目を履修したいので許可願います。

記

分野名		指導教員の署名	
コース名	コース		

履修を希望する科目の欄に○を記入すること。

区分	授業科目名	必修・選択の別		科目主任	履修希望
		必修	選択		
研究力向上 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 4単位以上	S-HIGO 特別実習	1		首藤 剛	○
	大学院教養教育プログラム科目 「研究の最前線と知の統合」		1	梅田 香穂子	
	S-HIGO 最先端研究セミナーA		1	西中村 隆一	
	S-HIGO 最先端研究セミナーB		2	西中村 隆一	
キャリアパス 支援 パッケージ 【履修方法】 必修・選択 合わせて 5単位以上	S-HIGO インターンシップ I	1		竹尾 透	○
	S-HIGO プロジェクト	2		小川 峰太郎	○
	S-HIGO リーダーシップ トレーニング講座		1	森岡 弘志	
	S-HIGO 行政・企業セミナーA		1	猿渡 淳二	
	S-HIGO 行政・企業セミナーB		2	猿渡 淳二	
	S-HIGO インターンシップ II		1	竹尾 透	

2. 研究力向上パッケージ科目

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-170-99-2	2024通年	医学教育部(24720)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGO特別実習(S-HIGO特別実習 (S-HIGO Practical Training))			首藤 剛		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……50% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……30% 3.グローバルな視野と行動力……10% 4.地域社会を牽引するリーダー力……10%					
授業の形態	実習				
授業の方法	実習項目毎に各担当分野で順次実習(1分野につき2日間)を行う。講義による原理の理解、実験操作の実施、結果のまとめと考察などを行い、レポートにまとめる。				
授業の目的	健康生命科学は、医学・薬学・保健学領域における多様な学問が集結する学際的な研究領域であるため、そこで利用される実験方法・技術も多岐にわたる。それら様々な実験手法を学ぶことは健康生命科学の研究に従事するために必要であるだけでなく、専門外の学問分野であってもその知見を裏付ける技術的背景を理解することは、多角的な視点から問題解決に挑む上で重要な素養となる。S-HIGO特別実習では、健康生命科学に関連する様々な実験方法・技術の中で特に重要なものを取り上げ、その原理と実際の手技を学ぶ。また、異分野への関心を高め、研究の幅やネットワークを広げることも目的とする。				
学修目標	<p>【A水準】 健康生命科学に関連する様々な実験方法・技術について、その原理と実際の手技を理解し、説明し、実施することができる。</p> <p>【C水準】 健康生命科学に関連する様々な実験方法・技術について、その原理と実際の手技を理解している。</p>				
授業の概要	<p>授業では、医学・保健学・薬学分野の受け入れ研究室において、様々な技術・手法に関して実習を行う。以下にその一部を紹介する。</p> <p>(例)</p> <p>免疫学的解析 ES細胞遺伝子改変・発現誘導 筋組織再生評価 FACS 細胞内シグナル応答 小動物代謝測定法、動物用CT PCR法等による悪性腫瘍研究基礎 細胞系酸化ストレス 心血管病モデル インスリン測定 走査型電子顕微鏡 タイムラプス顕微鏡 組織染色法 RNA・DNAの定量 オペラント学習実験、オープンフィールド試験 2光子顕微鏡 リポフェクション、ウェスタンブロット 線虫による生物活性評価 ライソゾーム病治療候補物質評価 臨床データによる生物統計 シクロデキストリン超分子 有機分子触媒 磁気共鳴に基づく生命イメージング 質量分析によるタンパク質同定 光学活性化合物入手法 有機合成 生体分子間相互作用の物理化学的解析 組織からの脂質抽出、定量 タンパク質結晶化とX線結晶構造解析 微生物資源からの医薬品シーズ探索 無菌操作・抗がん剤の効果 有用植物生育地環境データによるGIS解析 薬物体内動態 遺伝子発現解析 ウェスタン解析 核酸-タンパク質結合解析 胎児超音波断層法検査 母子保健教育の効果分析 Native-PAGE 血清タンパク質検出</p>				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		各担当分野の授業の日時と実習の内容については別途通知する。	各担当分野の授業の日時と実習の内容については別途通知する。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分となるため、15時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特になし。				
参考文献	特になし。(各担当者が指定する場合がある。)				
履修条件	4項目以上の実習(医学系、保健学系、薬学系の分野から少なくとも1つずつ)に参加し、実習の内容、自分の研究との関連などについてレポートを提出する。実習中の議論の状況、レポートの内容に基づき、実習項目の理解度を評価する。 *なお、本実習について、さらに深く、実験原理・方法・技術を学びたい学生は、実習期間の延長等について、希望する研究室担当者との自主的に相談すること。				
評価方法・基準	実習の内容、自分の研究との関連などについてレポートを提出する。実習中の議論の状況、レポートの内容に基づき、実習項目の理解度を評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				

教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト
実務経験を 活かした授業	非該当

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
KGG5-001-99-2	2024集中	教養教育（大学院）(15001)	1, 2, 3	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
研究の最前線と知の統合（2024年度）(持続可能な未来とレジリエンス—正解がひとつとは限らない問題に挑戦し、安心・安全で生涯健康な社会をつくるために—)			齋藤 靖, 細野 高啓, 竹内 裕希子, 西川 里織, 岡田 行雄, 小野 悠介, 首藤 剛, 梅田 香穂子		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……15% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……35% 3.グローバルな視野と行動力……20% 4.地域社会を牽引するリーダー力……30%					
授業の形態	講義・演習				
授業の方法	講義にディスカッションなどの要素を加えた双方向の対話型授業とする。				
授業の目的	大学院修了者には、「知のプロフェッショナル」として、今後の社会を先導し、指導的な立場に立つ人材となることが期待されている。知のプロフェッショナルが自らの意思で新たな価値を創造し、社会の様々な問題を解決していくには、専門力だけでなく、総合知（文理融合）を身につけるための高水準の幅広い教養が必要となる。そこで、大学院教養教育では、これまでに培った専門的な基礎知識や自らの研究の視点を活かし、より高度な内容を多角的かつ深く学び、授業を通して得られる様々な分野の知識（形式知）を自らの「知」に変える力（知力）を修得することを目的とする。その中で、自らの専攻の枠を超えた知識・視点を自分の中に取り込み、結びつけ、研究の発展や社会の課題解決に役立てるための「学際性」も涵養する。				
学修目標	【A水準】 (1) テーマについて、自らの定見を持ち、教員や他の受講者と十分に議論することができる。 (2) 各授業で得た形式知を結びつけ、テーマに対する自らの定見などをわかりやすく発表することができる。 (3) 授業を通して、何を学んだか、研究や将来にどう活かしたいかなどを明確に論述することができる。 【C水準】 本科目は、秀・優・良・可・不可の判定ではなく、合格・不合格で判定されるため、A水準に記載の目標を確認してください。				
授業の概要	学問分野横断的な取り組みが必要な「持続可能な未来とレジリエンス」というテーマを設定し、対話型の授業を実施する。テーマに沿った各分野の研究者が講師となり、研究内容や研究者としての視点を語り、学生はテーマに対する疑問や自分の考え・解釈を述べ、講師・学生間で討論する。最後に、授業全体を振り返り、全授業を通して得た自分の考え・解釈や今後の研究・将来にどう活かすか等について議論・発表する機会を設け、様々な分野の知識（形式知）を深化させ、自らの「知」に変える力（知力）の修得につなげる。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		概論 【担当教員】 大学教育統括管理運営機構 梅田 香穂子 准教授	授業の目的、「持続可能な未来とレジリエンス」というテーマを設定した意図や到達目標等についてのイントロダクションを行う。また、学生同士で受講の動機、日頃の研究テーマ、持続可能な未来とレジリエンスに対する現在のイメージなどについて、語りあう時間も設ける。グループワーク等のため、ZoomのBreakout room機能も活用する。		
2		モデル生物C. elegansから読み解く健康レジリエンス 【担当教員】 大学院生命科学部(薬) 首藤 剛 准教授	健康寿命延伸に資する次世代型健康・老化研究の推進を企図して構築した、モデル生物C. elegansの健康寿命評価技術「C-HAS」の開発事例を紹介する。その過程で生み出された研究開発型ベンチャー企業の設立の経緯も紹介し、健康レジリエンス社会の構築に向けたアカデミア人材の社会課題への向き合い方やアントレプレナー思考醸成のヒントを議論・考察したい。		
3		メンタルヘルスとレジリエンスの構築 【担当教員】 大学院人文社会科学部(文) 西川 里織 准教授	発達心理学と社会心理学を基盤に、レジリエンスとメンタルヘルスの相互関係に焦点を当てる。それらの要素を通じて、日常生活におけるストレスへの適切な対処方法を考察する。		
4		少年法・少年非行と社会のレジリエンス 【担当教員】 大学院人文社会科学部(法) 岡田 行雄 教授	少年の健全育成を目的とする少年法の概略、そして少年法が対象とする少年非行の要因と非行少年のレジリエンスに着目した対策の在り方について検討し、参加者と議論する。		
5		筋肉のレジリエンスが紡ぐ健康長寿の未来 【担当教員】 発生医学研究所 小野 悠介 教授	筋肉の発生・再生のメカニズム、筋量を維持する仕組み、筋量が健康寿命に及ぼす影響について学び、議論する。		
6		防災と地域社会のレジリエンス 【担当教員】 大学院先端科学研究部(工) 竹内 裕希子 教授	熊本で発生した災害を例に、災害が発生する要因を自然科学の視点と社会科学の視点双方から検討する。その上で災害レジリエンスのあり方、取り組み方について議論する。		
7		水環境のレジリエンス 【担当教員】 大学院先端科学研究部(理) 細野 高啓 教授	「熊本地震の地下水への影響、経済発展と地下水」というテーマで授業を行う。まず、地域の地下水賦存量や循環システムを科学的知見に基づいて紹介する。続いて、人間活動や経済活動、また自然災害が及ぼす地下水環境への影響について説明する。最後に、持続的な地下水資源利用の在り方について議論する。		
8		総合討論 【担当教員】 大学教育統括管理運営機構 梅田 香穂子 准教授	各授業で得た形式知を結びつけ、「持続可能な未来とレジリエンス」というテーマに対する自分の考えを持ち、自分が何を学んだか、研究や将来にどう活かしたいかなどを議論・発表する。グループワーク等のため、ZoomのBreakout room機能も活用する。		
授業外学修時間の目安	・本科目は、1単位科目であるため、全体で45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は16時間分(2h×8コマ)となるため、29時間分相当の事前・事後学修(毎回の授業振り返りシート記入・最終レポート等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はしない。				
参考文献	特に指定はしない。				
履修条件	・科目の目的・趣旨を十分に理解し、高い学修意欲を持って履修することが望ましい。 ・日本語の授業内容を理解でき、日本語で議論できる能力を有することが必要である。 ・提出レポートは日本語・英語のいずれかで作成すること。				

評価方法・基準	①授業内におけるグループディスカッションや発表などの積極的な参加態度 40%、②各回の授業振り返りシート10%、③最終レポート 50% によって、学修目標の達成状況を総合的に判断し、可否で評価する。
使用言語	「日本語」による授業(授業の一部を英語で行う場合がある。)
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(テキストの一部に英語を使用する場合がある。)
実務経験を 活かした授業	非該当

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-171-99-2	2024通年	医学教育部(24730)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGO最先端研究セミナーA(S-HIGO最先端研究セミナーA)			西中村 隆一, 塩田 倫史		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……50% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……25% 3.グローバルな視野と行動力……20% 4.地域社会を牽引するリーダー力……5%					
授業の形態	講義				
授業の方法	プログラムが認定する学内のセミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。1時間程度のセミナーをもって1回とみなす。				
授業の目的	健康生命科学は多様な学問が集結する学際性の高い研究領域であるだけでなく、21世紀の医療を担う新しい研究領域として急速に発展している。S-HIGO最先端研究セミナーは、健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、教育コースの講義で習得した知識を深化させ、さらに講義では扱えない幅広い学問分野における最新の知識習得を図る。				
学修目標	【A水準】健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、幅広い学問分野における最新の知識を習得して応用できる。 【C水準】健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、幅広い学問分野における最新の知識を習得する。				
授業の概要	セミナーでは、講義で扱う学問分野に加えて、医学・保健学・薬学の枠を越えた健康生命科学に関連する学問分野を広く取り扱う。 ※「HIGO最先端研究セミナー(リエゾンラボ研究会)」を受講対象セミナーとするが、「医学・生命科学セミナー」、「名医に学ぶセミナー」、「国際先端医学セミナー」についても受講対象セミナーとして認定する。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		セミナーの詳細は以下のウェブサイトにて随時発表する。 https://higoprogram.jp/category/saisentan/	基本的に毎週水曜の12:00から発生医学研究所1階カンファランス室で開催するが、場所の変更があり得るため、詳細はウェブサイトを参照のこと。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は8時間分(1h×8コマ)となるため、37時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	本授業に関連する基礎的な知識を有すること				
評価方法・基準	プログラムが認定するセミナーを8回以上聴講し、少なくとも2回のレポート提出を義務づける。レポートに基づき、当該講演内容の理解度を評価する。				
使用言語	「英語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-172-99-2	2024通年	医学教育部(24740)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGO最先端研究セミナーB(S-HIGO最先端研究セミナーB)			西中村 隆一, 塩田 倫史		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……50% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……25% 3.グローバルな視野と行動力……20% 4.地域社会を牽引するリーダー力……5%					
授業の形態	講義				
授業の方法	プログラムが認定する学内のセミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。1時間程度のセミナーをもって1回とみなす。				
授業の目的	健康生命科学は多様な学問が集結する学際性の高い研究領域であるだけでなく、21世紀の医療を担う新しい研究領域として急速に発展している。S-HIGO最先端研究セミナーは、健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、教育コースの講義で習得した知識を深化させ、さらに講義では扱えない幅広い学問分野における最新の知識習得を図る。				
学修目標	【A水準】健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、幅広い学問分野における最新の知識を習得して応用できる。 【C水準】健康生命科学に関連する最先端の研究を展開する国内外の研究者のセミナーを聴講し、幅広い学問分野における最新の知識を習得する。				
授業の概要	セミナーでは、講義で扱う学問分野に加えて、医学・保健学・薬学の枠を越えた健康生命科学に関連する学問分野を広く取り扱う。 ※「HIGO最先端研究セミナー(リエゾンラボ研究会)」を受講対象セミナーとするが、「医学・生命科学セミナー」、「名医に学ぶセミナー」、「国際先端医学セミナー」についても受講対象セミナーとして認定する。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		セミナーの詳細は以下のウェブサイトにて随時発表する。 https://higoprogram.jp/category/saisentan/	基本的に毎週水曜の12:00から発生医学研究所1階カンファランス室で開催するが、場所の変更があり得るため、詳細はウェブサイトを参照のこと。		
授業外学修時間の目安		本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は15時間分(1h×15回)となるため、75時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。			
テキスト		特に指定しない。			
参考文献		特に指定しない。			
履修条件		本授業に関連する基礎的な知識を有すること			
評価方法・基準		プログラムが認定するセミナーを15回以上聴講し、少なくとも4回のレポート提出を義務づける。レポートに基づき、当該講演内容の理解度を評価する。			
使用言語		「英語」による授業			
教科書・資料の言語		「日本語と英語を併用した」テキスト			
実務経験を活かした授業		非該当			

3. キャリアパス支援パッケージ科目

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-703-99-2	2024通年	医学教育部(24760)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGOプロジェクト(ー S-HIGOプロジェクト)			小川 峰太郎, 梅田 香穂子, HARI PRASAD DEVKOTA		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……45% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……30% 3.グローバルな視野と行動力……10% 4.地域社会を牽引するリーダー力……15%					
授業の形態	その他				
授業の方法	年1回、発表会において、S-HIGOプロフェッショナルプログラム科目における学修成果及び研究成果を発表する。				
授業の目的	S-HIGOフェローシッププログラムは、健康生命科学の高度な研究力と学際的マインド・実践力を兼ね備えた博士人材を育成することを目指し、学生が研究に専念できる環境の整備や、特徴的なパッケージ科目の開講などを行っている。 本科目では、プログラム生が自身の学修成果や研究成果を発表し、メンター教員や産業界メンター等から評価や指導・助言を受けることにより、さらなる研究力の向上や、学際的マインド・実践力を身につけることを目的とする。				
学修目標	【A水準】 高度な研究力と学際的マインドを持ち、これを実践することができる。 _____ 【C水準】 一定水準以上の研究力と学際的マインドを持ち、これを実践することができる。				
授業の概要	インターンシップ等、S-HIGOプロフェッショナルプログラム科目の学修成果や、自身の研究成果について、毎年度開催する発表会にて発表を行う。 S-HIGOプログラム担当教員、産業界メンターから、発表内容及びそのスキル、研究や学修への取り組み状況について指導・助言を受ける。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		スケジュール等は別途通知する。	スケジュール等は別途通知する。		
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業（発表）は1日であるが、自らの研究成果とS-HIGOプロフェッショナルプログラムの各科目の学修成果を包括して理解を深め、これを効果的に発表するために、相当時間数の時間外学習を必要とする。				
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	本授業に関連する基礎的な知識を有すること				
評価方法・基準	発表に対して、研究力、学際的マインド、実践的能力等の修得度を評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-173-99-2	2024通年	医学教育部(24750)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGOインターンシップⅠ(S-HIGOインターンシップ)			竹尾 透, 梅田 香穂子, DEVKOTA HARI		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……20% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……35% 3.グローバルな視野と行動力……15% 4.地域社会を牽引するリーダー力……30%					
授業の形態	その他				
授業の方法	行政機関や産官学連携している大学、企業等での体験型実習。 臨地体験終了後、発表・討論等を行い、学習内容の理解を深める。				
授業の目的	S-HIGOプロフェッショナルプログラムは、研究力に加え、学際的マインドや実践力などを兼ね備え、高齢化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの複雑な社会問題を健康生命科学の観点から俯瞰し、科学的エビデンスに基づく技術・政策・医療などを創出することのできるプロフェッショナル人材を養成することを目的とする。しかし、その資質を涵養するためには、医学、保健学、薬学、生命科学等の学問領域のみならず、福祉や公衆衛生、多文化共生などのほか、企業経営、コンプライアンス、社会貢献などの企業的知識を修得することが必要である。S-HIGOインターンシップⅠでは、行政機関、企業等における地域的・国際的な臨地体験に基づき、それらの生きた情報に触れることにより、課題設定・課題解決・実践力を獲得するとともに、さらなる学習・研究意欲の向上や、職業観・使命感の育成を図る。				
学修目標	【A水準】 社会課題解決・社会貢献の現場を臨地体験することにより、福祉、公衆衛生、多文化共生等の知識のほか、企業経営、コンプライアンス、地域・国際社会貢献などについての知識を修得し、実践的な能力を獲得する。 【C水準】 社会課題解決・社会貢献の現場を臨地体験することにより、福祉、公衆衛生、多文化共生等の知識のほか、企業経営、コンプライアンス、地域・国際社会貢献などについての知識を修得する。				
授業の概要	行政機関や産官学連携している大学、企業等の協力の下に、健康生命科学や地方創生、外国人労働者、防災、対感染症政策、医薬品研究・開発など幅広い社会課題解決の現場を体験し学修する。 なお、日本語による実習を基本とするが、英語により実施される実習も計画される。場合により、日本語の実習において英語通訳等の措置を行うこともある。 実習を担当いただく官公庁・企業・団体が追加・変更された場合、複数の企業が連携して実施される場合などの変更があった場合には、メール等で連絡しますので、随時、確認するようにして下さい。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		企業理念・企業コンプライアンス・経営・企画・運営・経理・社会貢献・地域貢献・ニーズの学習、キャリアパス形成 ※詳細は、後日メールやガイダンス等にて説明予定。	行政機関・大学・企業・医療関連施設等を訪問し、インターンシップで取り上げる社会的課題に関する歴史、現状、法律、課題に対する取り組みなどを学ぶ。 ※詳細は、後日メールやガイダンス等にて説明予定。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分となるため、15時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はせず、インターンシップの概要に関するプリントを配布する。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	指導教員およびS-HIGOプログラムでの承認が必要				
評価方法・基準	臨地体験、発表・討論の積極的な態度およびe-portfolioのレポート記載内容に基づき、当該インターンシップによる実践的能力の修得度を評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-177-99-2	2024通年	医学教育部(24800)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGOインターンシップⅡ(S-HIGOインターンシップⅡ)			竹尾 透, 梅田 香穂子, DEVKOTA HARI		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……20% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……35% 3.グローバルな視野と行動力……15% 4.地域社会を牽引するリーダー力……30%					
授業の形態	その他				
授業の方法	行政機関や産官学連携している大学、企業等での体験型実習。臨地体験終了後、発表・討論等を行い、学習内容の理解を深める。				
授業の目的	S-HIGOプロフェッショナルプログラムは、研究力に加え、学際的マインドや実践力などを兼ね備え、高齢化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの複雑な社会問題を健康生命科学の観点から俯瞰し、科学的エビデンスに基づく技術・政策・医療などを創出することのできるプロフェッショナル人材を養成することを目的とする。しかし、その資質を涵養するためには、医学、保健学、薬学、生命科学等の学問領域のみならず、福祉や公衆衛生、多文化共生などのほか、企業経営、コンプライアンス、社会貢献などの企業的知識を修得することが必要である。S-HIGOインターンシップⅠでは、行政機関、企業等における地域的・国際的な臨地体験に基づき、それらの生きた情報に触れることにより、課題設定・課題解決・実践力を獲得するとともに、さらなる学習・研究意欲の向上や、職業観・使命感の育成を図る。				
学修目標	【A水準】 社会課題解決・社会貢献の現場を臨地体験することにより、福祉、公衆衛生、多文化共生等の知識のほか、企業経営、コンプライアンス、地域・国際社会貢献などについての知識を修得し、実践的な能力を獲得する。 【C水準】 社会課題解決・社会貢献の現場を臨地体験することにより、福祉、公衆衛生、多文化共生等の知識のほか、企業経営、コンプライアンス、地域・国際社会貢献などについての知識を修得する。				
授業の概要	行政機関や産官学連携している大学、企業等の協力の下に、健康生命科学や地方創生、外国人労働者、防災、対感染症政策、医薬品研究・開発など幅広い社会課題解決の現場を体験し学修する。 なお、日本語による実習を基本とするが、英語により実施される実習も計画される。場合により、日本語の実習において英語通訳等の措置を行うこともある。 実習を担当いただく官公庁・企業・団体が追加・変更された場合、複数の企業が連携して実施される場合などの変更があった場合には、メール等で連絡しますので、随時、確認するようにして下さい。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		企業理念・企業コンプライアンス・経営・企画・運営・経理・社会貢献・地域貢献・ニーズの学習、キャリアパス形成 ※詳細は、後日メールやガイダンス等にて説明予定。	行政機関・大学・企業・医療関連施設等を訪問し、インターンシップで取り上げる社会的課題に関する歴史、現状、法律、課題に対する取り組みなどを学ぶ。 ※詳細は、後日メールやガイダンス等にて説明予定。		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分となるため、15時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はせず、インターンシップの概要に関するプリントを配布する。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	指導教員およびS-HIGOプログラムでの承認が必要				
評価方法・基準	臨地体験、発表・討論の積極的な態度およびe-portfolioのレポート記載内容に基づき、当該インターンシップによる実践的能力の修得度を評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-174-99-1	2024通年	医学教育部(24770)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGOリーダーシップトレーニング講座(リーダーシップトレーニング講座)			森岡 弘志, DEVKOTA HARI, MITCHELL ANDREW NEIL		
学修成果とその割合					
2.学際的領域を理解できる深奥な教養力 ……20% 3.グローバルな視野と行動力 ……40% 4.地域社会を牽引するリーダー力 ……40%					
授業の形態	演習				
授業の方法	演習、スモールグループ討論				
授業の目的	S-HIGOフェローシッププログラムは、健康生命科学の高度な研究力と学際的マインド・実践力を兼ね備えた博士人材を育成することを目指している。その中で、課題発見・解決能力、コミュニケーション力、企画立案・実践力、リーダーシップなどのコンピテンシーを養うことが必要である。そこで本科目では、ビジネスや社会活動におけるセルフ・リーダーシップ、チーム・リーダーシップ、グローバル・リーダーシップを学び、実践的スキルを身につけることを目的とする。				
学修目標	【A水準】 セルフ・リーダーシップ、チーム・リーダーシップ、グローバル・リーダーシップを理論、ケーススタディなどを通して学ぶ。また、自分自身のリーダーシップ開発プランを作成、発表を行い、今後の行動につなげる。 【C水準】 セルフ・リーダーシップ、チーム・リーダーシップ、グローバル・リーダーシップを理論、ケーススタディなどを通して学ぶ。				
授業の概要	MBA（ビジネススクール）などで学ぶリーダーシップ論（研究）の流れとリーダーシップの全体像を理解するカードゲーム、ケーススタディ、ロールプレイ演習などを通じてリーダーシップ実践の方法を学ぶ。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		リーダーシップ論、セルフ・リーダーシップ、チーム・リーダーシップ、グローバル・リーダーシップ	講義、ケーススタディ及びスモールグループディスカッションでリーダーシップ論、セルフ・リーダーシップについて学ぶ。 3日間の演習プログラム		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は21時間分（7h×3日）となるため、24時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	World Class Leadership（World Scientific）、ワールドクラス・リーダーシップ（同友館）				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	事前課題図書 World Class Leadership（ワールドクラス・リーダーシップ）を読んでおくことが望ましい。				
評価方法・基準	3日間のリーダーシッププログラムへの受講状況（50%）とe-portfolioを利用したレポート（50%）で評価する。				
使用言語	「英語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-175-99-2	2024通年	医学教育部(24780)	1, 2, 3, 4	1	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGO行政・企業セミナーA(S-HIGO行政・企業セミナー)			猿渡 淳二, 梅田 香穂子, DEVKOTA HARI		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力……20% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力……25% 3.グローバルな視野と行動力……25% 4.地域社会を牽引するリーダー力……30%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を重視したセミナー形式で、Power point, OHP等を活用する。セミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。日本人講師の場合、原則、日本語による講義・テキスト、外国人講師の場合、英語による講義・テキストで行う。				
授業の目的	S-HIGOフェローシッププログラムは、健康生命科学の高度な研究力と学際的マインド・実践力を兼ね備えた博士人材を育成し、多様なキャリアパスを実現することを目指している。また、健康生命科学分野においては、未来の医療や社会のあり方を俯瞰し、複雑な健康課題に対して戦略を企画・実践できる人材が必要とされている。その資質を涵養するためには、医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず幅広い知識を修得し、産業・行政・社会への理解を深める必要がある。 本科目では、企業・行政からの視点を獲得し、それらのニーズを理解することで、社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を涵養し、キャリア形成に役立てることを目的に、国内外の企業・行政機関・大学等の経営者・研究者・開発者等を講師として招聘するセミナーを聴講する。個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学ほかの多様な課題の解決について、現状や将来の展望、健康生命科学の社会還元のあるあり方、講師のキャリアパスなど、通常教育コースの講義では取り扱うことのない最新知識を修得できる。				
学修目標	【A水準】 医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等、個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学上の課題についての幅広い知識を修得し、応用できることに加え、産業・行政・社会を理解し、それらのニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を獲得し、実践できる。 【C水準】 医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等、個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学ほかの多様な課題の解決について、幅広い知識を修得し、産業・行政・社会を理解し、それらのニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を獲得する。				
授業の概要	【行政セミナー】 熊本県庁、熊本市役所、中央官庁などの行政機関から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、医薬政策、福祉、環境、公衆衛生、健康危機管理、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。 【企業セミナー】 企業等から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、企業理念、企業コンプライアンス、社会・地域貢献、地域経済、人材育成、国際化、環境、循環社会、経営、広報などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。 --- なお、日本人が講師の場合、日本語による講演を基本とするが、その場合は英語通訳等の措置を行う。 プログラム在籍中に通算して少なくとも8回受講すること。 また、セミナーの開催情報および講演をいただく官公庁・企業・団体が追加・変更された場合には、HIGOプログラムホームページに掲載するので、随時、参照すること。 (行政セミナー) https://higoprogram.jp/category/gyousei/ (企業セミナー) https://higoprogram.jp/category/kigyou/				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		医・薬・保健学を扱う分野に加え、政策、福祉、環境、公衆衛生、健康危機管理、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理、社会課題の解決事例など テーマが決まり次第、HIGOプログラムのホームページに掲載	講師の所属機関の事業や業務の紹介、健康あるいは多様な社会課題の解決例、講師のキャリアパス、学生へのメッセージ等 具体的な内容が決まり次第、HIGOプログラムのホームページに要旨などを掲載する		
授業外学修時間の目安	本科目は、45時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は16時間分(2h×8コマ)となるため、29時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はせず、セミナーのポイントをまとめたプリントを配布する。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	特別な理由が無い限りセミナーに参加すること。特別な理由によりセミナーを欠席する場合、欠席理由書を提出すること。その場合、Moodleでの受講を認める。				
評価方法・基準	少なくとも8回以上のセミナーに出席し、2回以上のレポート提出を義務づける。セミナーの内容に関するレポートにより評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-176-99-2	2024通年	医学教育部(24790)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
S-HIGO行政・企業セミナーB(S-HIGO行政・企業セミナー)			猿渡 淳二, 梅田 香穂子, DEVKOTA HARI		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力・・・20% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力・・・25% 3.グローバルな視野と行動力・・・25% 4.地域社会を牽引するリーダー力・・・30%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を重視したセミナー形式で、Power point, OHP等を活用する。セミナーを聴講し、講演内容とそれに対する考察を記したレポートを作成する。日本人講師の場合、原則、日本語による講義・テキスト、外国人講師の場合、英語による講義・テキストで行う。				
授業の目的	S-HIGOフェローシッププログラムは、健康生命科学の高度な研究力と学際的マインド・実践力を兼ね備えた博士人材を育成し、多様なキャリアパスを実現することを目指している。また、健康生命科学分野においては、未来の医療や社会のあり方を俯瞰し、複雑な健康課題に対して戦略を企画・実践できる人材が必要とされている。その資質を涵養するためには、医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず幅広い知識を修得し、産業・行政・社会への理解を深める必要がある。 本科目では、企業・行政からの視点を獲得し、それらのニーズを理解することで、社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を涵養し、キャリア形成に役立てることを目的に、国内外の企業・行政機関・大学等の経営者・研究者・開発者等を講師として招聘するセミナーを聴講する。個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学ほかの多様な課題の解決について、現状や将来の展望、健康生命科学の社会還元のあるあり方、講師のキャリアパスなど、通常教育コースの講義では取り扱うことのない最新知識を修得できる。				
学修目標	【A水準】 医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等、個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学上の課題についての幅広い知識を修得し、応用できることに加え、産業・行政・社会を理解し、それらのニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を獲得し、実践できる 【C水準】 医学、保健学、薬学、生命科学などの学問領域のみならず、福祉、公衆衛生、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理等、個人の生活から地球規模にいたる健康生命科学ほかの多様な課題の解決について、幅広い知識を修得し、産業・行政・社会を理解し、それらのニーズを強く意識して社会に対する責任を自覚し、敏感に対応できる資質を獲得する。				
授業の概要	【行政セミナー】 熊本県庁、熊本市役所、中央官庁などの行政機関から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、医薬政策、福祉、環境、公衆衛生、健康危機管理、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。 【企業セミナー】 企業等から講師を招き、医学および薬学で扱う学問分野に加えて、企業理念、企業コンプライアンス、社会・地域貢献、地域経済、人材育成、国際化、環境、循環社会、経営、広報などに関連する様々な分野の内容を広く取り扱う。 --- なお、日本人が講師の場合、日本語による講演を基本とするが、その場合は英語通訳等の措置を行う。 プログラム在籍中に、通算して少なくとも15回受講すること。 また、セミナーの開催情報および講演をいただく官公庁・企業・団体が追加・変更された場合には、HIGOプログラムホームページに掲載するので、随時、参照すること。 (行政セミナー) https://higoprogram.jp/category/gyousei/ (企業セミナー) https://higoprogram.jp/category/kigyuu/				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		医・薬・保健学を扱う分野に加え、政策、福祉、環境、公衆衛生、健康危機管理、環境資源、循環社会、生物多様性、環境倫理、社会課題の解決事例など テーマが決まり次第、HIGOプログラムのホームページに掲載	講師の所属機関の事業や業務の紹介、健康あるいは多様な社会課題の解決例、講師のキャリアパス、学生へのメッセージ等 具体的な内容が決まり次第、HIGOプログラムのホームページに要旨などを掲載する		
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定はせず、セミナーのポイントをまとめたプリントを配布する。				
参考文献	特に指定しない。				
履修条件	特別な理由が無い限りセミナーに参加すること。特別な理由によりセミナーを欠席する場合、欠席理由書を提出すること。その場合、Moodleでの受講を認める。				
評価方法・基準	少なくとも15回以上のセミナーに出席し、4回以上のレポート提出を義務づける。セミナーの内容に関するレポートにより評価する。				
使用言語	「日本語と英語によるミックス」授業				
教科書・資料の言語	「日本語と英語を併用した」テキスト				
実務経験を活かした授業	非該当				